

新築ハウジング

THE SHINKEN HOUSING

発行所：株式会社 新築新聞社

東京 〒160-0015 東京都新宿区大塚町31東苑ビル TEL (03) 5312-7740 FAX (03) 5312-7741
長野 〒380-0836 長野市南町686-6 TEL (026) 234-1211 FAX (026) 234-1310

フリーダイヤル **0120-47-4341**

2010.7.30
vol.521
[毎月10.20.30日発行]



おかげさまで全国700社を超えるネットワークになりました。
通気断熱WB工法

INDEX

- 5 エネルギー自給自足への挑戦
- 8 長期優良先導事業採択提案紹介
- 10 村営の住宅ポータルが好評
- 12 再考 コストダウン [資材調達編]

最新ニュースを毎日更新 新築ハウジングWEB <http://s-housing.jp/>

もう一度考える

健康リスクの軽減
効果を「見える化」

健康住宅

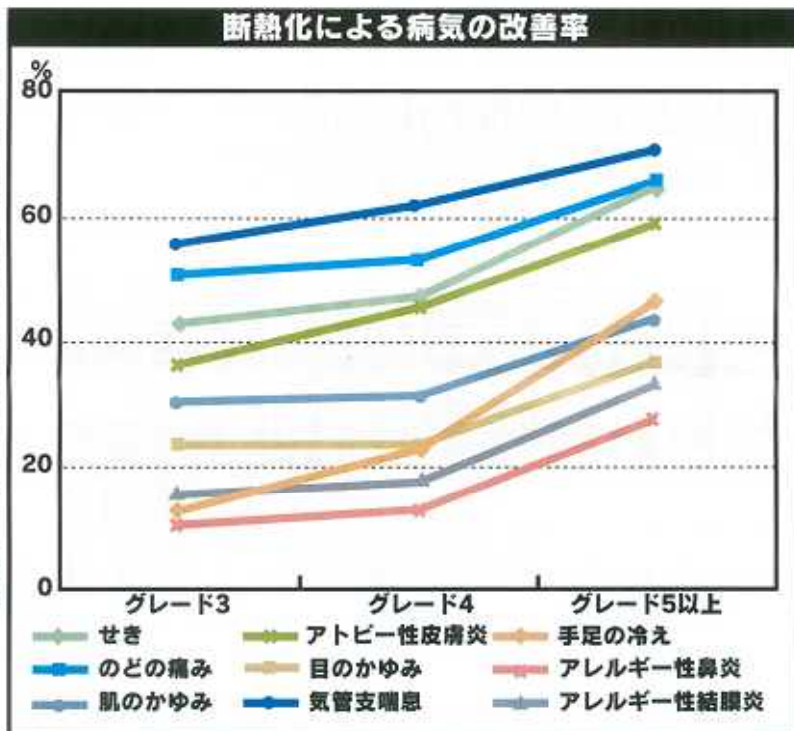
断熱化で体調改善 のどの痛み 喘息・せき 3人中2人が「出なくなっただ」

●調査の概要 寝室の窓から断熱性能を推定

調査は2002年〜2008年の間に戸建て住宅を取得した住まい手約2万人を対象にインターネットで実施。転居後にさまざまな病気の症状がどう変わったかを聞いた。「以前と変わらず(症状が出ない)」「出るようになった」「出なくなった」「以前と変わらなくなった」の4つの選択肢から選んでもらっている。グラフは症状が「出なくなった」人の割合だ。

転居前の住宅の断熱性能はわからないが、転居後の住宅の断熱性能は、寝室のサッシの種類とガラスの枚数を聞き、そこから推定した。

アルミサッシシングルガラスがグレード3(省エネ等級3)、アルミサッシペアガラスがグレード4(省エネ等級4)、樹脂サッシペアガラスがグレード5(省エネ等級4以上の高性能)といった具合。ただし、北東北・北海道の住宅は評価を下げ、樹脂サッシペアガラスをグレード4としている。



近大・岩前篤教授が調査結果まとめる

なぜ「もう一度健康住宅」?

家庭内のヒートショックで亡くなる人は年間1万4000人にのぼるといふ推計がある(東京ガス都市生活研究所)。これは交通事故者の2.4倍にあたる。亡くならないにしても、重い疾患や後遺症を抱えたり、寝たきりになるケースも少なくない。これは隠れた社会問題だといえ、その解消に貢献するのはつくり手の使命だ。一方で高齢者の最大の関心事は「健康」になっており、「健康」を切り口にした断熱改修の潜在需要は大きい。国としてもこれ以上医療費負担が増えるは避けたいうえ、高齢者の健康不安がなくならなければその資産が消費に回ること期待できる。これらから、マーケティング的にも省エネ・快適に健康を加えて提案することが今後有効だと言える。

上のグラフは、近畿大工学部教授の岩前篤さんが住まい手に行ったアンケート調査結果をまとめたもの。断熱性能の高い家に転居したあと、病気の諸症状がよくなくなった人の割合(II改善率)を示している。

注目したいのは、どの症状も断熱性能が上がると改善率が上がっていることだ。

「断熱化の費用対効果を測る指標は従来、ほとんど省エネ(光熱費)だけだった。しかし、断熱化は人の健康状態にも影響をもたらす。それが、びっくりするくらいはつきりデータに表れた」と岩前さんは話す。

アンケート調査は昨年002年〜2008年の間に住宅を取得した住まい手約2万人を対象にインターネットを通して行った。

なぜ症状が改善したかは、今回の調査からはわからない。あくまで、断熱化の健康増進効果を大

答を依頼した。転居後にせきやのどの痛みといった病気の諸症状がどうなったかを聞いた。

結果、気管支喘息、のどの痛み、せき、アトピー性皮膚炎、肌のかゆみは、転居した住宅がグレード3の断熱性(II省エネ等級3相当)でも改善率が30%超。グレード4(II省エネ等級4相当)になると改善率はさらに上がる。

さらにグレード5(II省エネ等級4以上の高性能住宅)では、気管支喘息、のどの痛み、せき、アトピー性皮膚炎の改善率が実に60〜70%。3人のうち2人が「以前の住まいに比べ症状が出なくなった」と答えているというのだ。

住宅リフォームの販促支援に特化した
リフィードだからできる
反響型ホームページの総合サポート
ビルダーお助けネット 検索

詳しい資料のお申し込みは **株式会社リフィード** ☎092-717-7010

局的に見た一つのデータだ。室内の温度が上がって一定になった、結露がなくなりダニ・カビの発生が減ったなど「いろいろ要因がからんでいる」と岩前さんは言う。

「工務店の方と話していると「暖かい家にしたらおばあさんの具合がよくなった」「家族がかぜをひかなくなった」などという話をよく聞く。それを数字に出してみたら、確かにそのとおりだったということ」

こうした調査データが最近、数多く取られて発表されている。既存住宅の断熱改修、すなわちリフォームの費用対効果を明らかにし、メリットをわかりやすく住まい手に示していくというねらいが一つ。取り組みが今後、加速しそうだ。(2面につづく)